JICA 教師海外研修　学習指導案・授業実践報告書

【実践者】

氏名	仲田莉果	学校名	埼玉県立大宮中央高等学校 （単位制による通信制）
担当教科等	現代社会	対象学年（人数）	１～３年次　※単位制（２９名）
実践年月日もしくは期間（時数）		令和元年　１０　月　３１　日　（　１　時間）	

【実践概要】

1. 実践する教科・領域：「現代社会」
第１回目のスクーリング

2. 単元(活動)名：
「わたしたちの生きる社会」

3. 授業テーマ（タイトル）と単元目標

授業テーマ：「私たちの生きる社会」

―地球環境問題、資源・エネルギー問題を通じて、限りある資源とどのように付き合っていくか―

単元目標：

地球環境問題や資源・エネルギー問題についての認識を深め、環境や資源が有限であることを理解し、将来世代のために我々がどのように行動していくべきかを考察する。

関連する学習指導要領上の目標：

１．科目の目標：「人間の尊重と科学的な探究の精神に基づいて、広い視野に立って、現代の社会と人間についての理解を深めさせ、現代社会の基本的な問題について主体的に考察し公正に判断するとともに自ら人間としての在り方生き方について考察する力の基礎を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。」

２．内容とその取扱い：(1)私たちの生きる社会

「現代社会における諸課題を扱う中で、社会の在り方を考察する基盤として、幸福、正義、公正などについて理解させるとともに、現代社会に対する関心を高め、いかに生きるかを主体的に考察することの大切さを自覚させる。」・・中略・・

「『環境』を取り扱う場合は、環境問題が深刻化する現代社会において、これまでの環境にかかわる政治・経済体制や倫理観について検討を深めることの大切さに気付かせながら、地球温暖化、資源・エネルギー問題などの環境にかかわる諸課題を考察させることを通じて、幸福・正義・公正など社会の在り方を考察する基盤を理解させる。その際、『地球の有限性』『世代間倫理』などを手掛かりにすることなどが考えられる。例えば、熱帯林伐採に関して、経済活動を優先する立場と環境の保全を期待する立場との対立を取り上げ、なぜ地球規模の課題とされながらも国際的な合意が成立しにくいのか、有限な環境と資源という状況の中で、現在世代の利益と将来世代の利益とをどのようにして調和させるのかについて考察させることが考えられる。」

4. 単元の評価規準	①知識及び技能	地球環境問題と資源･エネルギー問題について理解を深め､「持続可能性（ビリティ）」を切り口に、それらに対する国際的な取組が行われていることを知り、その実現や合意形成の難しさについて考える。
	②思考力、判断力、表現力等	地球環境問題と資源・エネルギー問題を解決するために社会や自分自身ができることについて考え、判断し、適切に表現できる。
	③学びに向かう力、人間性等	「持続（サステナブル） 可能性（ビリティ）」や「SDGs」について知り、国際社会が直面する地球環境問題と資源・エネルギー問題にどう取り組むべきかを考え、他者の意見を受け入れながら自らの行動を変容できる。

5. 単元設定の理由・単元の意義 （児童／生徒観、教材観、指導観）	【単元設定の理由】 本課程は県内唯一の公立通信制高校に置かれた課程であり、様々な事情により他校から転学又は退学した生徒のみを受け入れている。グローバル化が進む中、こうした特殊な環境で学ぶ通信制の生徒に対しても、地球環境問題や資源・エネルギー問題等世界で起こっていることについて理解を深めてもらいたいと考え、今回の単元設定に至った。 【単元の意義】 「私たちの生きる社会」は「現代社会」の最初に学ぶ大単元で、この教科の要である現代社会の諸課題について幅広く扱っている。今回はその中でも地球環境問題と資源・エネルギー問題に焦点を当て、今注目されている「ＳＤＧｓ（エスディジーズ）」や「持続可能性（サスティナビリティ）」という考え方を紹介しながら、環境や資源が有限であることを理解し、自分達がどう行動していくべきかを考察させたい。 具体的には「SDGs」を切り口に、学習の動機づけとなるような身近な教材として「スマートフォン」を取り上げ、授業づくりを行った。「スマートフォン」の部品となる「レアメタル」がどのようにして生産されているかを明らかにしながら、我々が限りある資源とどう付き合っていくべきかについて主体的に考えさせたい。 【児童／生徒観】 本校は通信制高校であるため、生徒は週1回のスクーリング（面接指導）、レポート（提出課題）による自学自習を中心に学んでいる。単位制であるため学年の枠がなく、生徒は自分の未修得の科目を選んで受講し、半年毎に単位認定が行われる。今回対象とする講座は、新入生から在校生までの２９名が受講している。生徒の実態として、いじめや不登校の経験等深刻な事情を抱えた生徒が多く、他人と関わることが極度に苦手な生徒も見られる。学力や学習意欲の差も大きいため、具体的でわかりやすい教材の提示、学習の動機づけが求められる。 【指導観】 先述したように、通信制高校には他人との関わりに強い苦手意識を持っている生徒が多い。そのため、グループワークなどの主体的な活動を入れることが難しい。全日制に比べて授業時数も少ないので、１回で最低１つの大単元、即ち教科書数十ページを一度で進めなければならない。従って授業内容の精選を念頭に置きつつも、生徒に主体的な学びを提供できるような授業づくりを心掛けた。今回は２年前から活用している「付箋」に意見を書かせて紹介する活動を入れ、生徒間の意見交換ができるよう工夫した。

6. 単元計画（全　1　時間）

時	小単元名	学習のねらい	学習活動	資料など
1 本時	「わたしたちの生きる社会」	地球環境問題や資源・エネルギー問題についての認識を深め、環境や資源が有限であることを理解し、将来世代のために我々がどのように行動していくべきか考察する。	・“地球環境問題”にはどのようなものがあるか生徒に投げかけ、いくつか挙げてもらう。 ・地球環境問題に対する国際的な取組について紹介し、「SDGs」や「持続可能性（サスティナビリティ）」という考えについて説明する。 ・DVD「スマホの真実―鉱物資源と環境破壊とのつながり」のチャプター１を視聴する。 ・“DVD を視聴した感想”と“DVD を見て、これから私達は何をすべきか”をそれぞれ色の異なる付箋に書いてもらい、それを教員が回収し、その一部を抜粋して紹介する。 ・ザンビアで撮影した写真を生徒に見せ、安全な水へのアクセスが難しいことなどを知る。 ・スクーリングを受けての感想や考えを	・開発教育協会「スマホの真実―鉱物資源と環境破壊とのつながり」DVD ・開発教育協会「スマホから考える世界・わたし・SDGs」 ・現地で入手したアフリカの大型地図 ・ザンビア各地で撮影した写真（鍵のついた水道等） ・ザンビアと日本のレジ袋(実物)

			書く。	

7．本時の展開（　１　時間目）
本時のねらい：地球環境問題や資源・エネルギー問題についての認識を深め、環境や資源が有限であることを理解し、将来世代のために我々がどのように行動していくべきかを考察する。

過程・時間	教員の働きかけ・発問および学習活動・指導形態	指導上の留意点（支援）	資料（教材）
出欠確認 (3分)	・ＯＣＲ（出席表）をまわし、出欠確認をする。 ・レポートについての本校のルールを説明する。	・レポートの提出期限など、具体的な日にちを板書し、確認させる。	レポート p1-1「公民科を受講するにあたって」
導入 (7分)	発問「地球環境問題にはどのようなものがあるか」 Ex)砂漠化、酸性雨、地球温暖化、ｵｿﾞﾝ層の破壊、等 世界規模で環境問題が起こっていることを説明する。 レポート p1-2【問１】を解説	・生徒数名を指名して答えさせる。(「地球温暖化」を引き出させる) 教科書ｐ６～を参照しながら問題を解いていく。(机間巡視で確認)	教科書ｐ６～１１「破壊される地球（１）（２）」 レポート p1-2
展開① (7分)	発問「地球環境問題への（国際的な）取り組みにはどんなものがあるのでしょうか」 →Ex①)1992年「持続可能な発展」“地球サミット”を紹介し、レポート p1-3【問１】の続きを解説。 プリントを使い、「持続可能性（サスティナビリティ）」について説明する。 Ex②)ザンビアのエコバック運動 日本でも2020年度からレジ袋の有料化･義務化が始まることを紹介する。 →ザンビアでもレジ袋が有料であったと紹介する。	あまり指名すると生徒が委縮するので、今回の発問では指名せず、教科書から探させる。 授業プリントを配布 ・ザンビアの概要について、簡単に補足説明し、ザンビアの位置を地図で確認させる。	教科書ｐ１２～１３ レポート p1-3 授業プリント【Ｑ１】 →※解答は① ・アフリカの大型地図を黒板に掲示する。 ・ザンビアで入手した有料レジ袋、日本のコンビニのレジ袋を掲示する。
展開② (20分)	「限りある資源」とは何か具体的に説明する。 →Ex①)枯渇性資源（石油や金属（鉱物）） レポート p1-4【問２】を解説 アフリカ等で採れる「レアメタル」について解説 DVD「スマホの真実―鉱物紛争と環境破壊とのつながり」【チャプター１】（５分）を視聴する。 生徒に「DVDを視聴しての感想」を赤色の付箋、「DVD を見て、これから私達は何をすべきか」を青色の付箋にそれぞれ書いてもらう（４分） →回収し黒板に貼り、同じ意見をグルーピングしながら紹介し、授業者がまとめの解説を加えていく。 レポート p1-4【問２】の続きを再度、解説 プリント裏面の新聞記事を紹介し、こうした地域のレアメタルを使用しない企業もあると説明。	・レジ袋が石油からできたプラスチック製品であることに触れる。 ・レアメタルは身の周りのほぼ全てのハイテク製品に使われており、スマホにも多く使われていることを説明して、動画を見せる。 ・2 色の付箋を各１枚ずつ配布する。感想は、気づいたこと・わかったこと・印象的だったことをキーワードで短く書くことを説明。 ・教科書ｐ１７を見ながら、レアメタルの種類について説明する。	教科書ｐ１６～１７ レポート p1-4 ・実物のスマートフォンを見せる。 ・DVD「スマホの真実―鉱物紛争と環境破壊とのつながり」を視聴 １枚ずつ付箋を配布 →4分後に回収する。 →すべて黒板に貼る。 →グルーピングする。 教科書ｐ１７ レポート p1-4 授業プリント≪裏面≫の新聞記事

展開③ (7分)	発問「改めて「持続可能性」とは何だろう？」 ・授業プリント【Ｑ２】をやってもらい、世界には地球環境問題だけでなく、飢餓や貧困といった社会・経済の問題も数多く存在することを説明する。解決策を考える上で大事なのが「持続可能性」という考え方であり「SDGs」についても解説を加える。 ・ザンビア各地で撮影した写真を見せる。アフリカでは安全な水へのアクセスが難しいこと、人口問題や食料問題が起こっていることを解説する。 レポートp1-5【問２】の続きを再度、解説	・スクーリング冒頭で話した「持続可能性」「持続可能な発展」についてもう一度解説する。 ・近年、紛争国や環境破壊が進む地域から産出される鉱物を自社製品に使わないようにする取り組みが広まっていることを紹介する。	授業プリント【Ｑ２】 ザンビア各地で撮影した写真を大型TVに映す 写真の情報について詳しく説明を加える。 教科書ｐ２４～２５ レポートp1-5
まとめ (6分)	本時の感想をプリント【まとめ】欄に記入させる ・次回スクーリングの予定確認 ・単位を修得するための本校のルールを説明する	・教科書ｐ２５の内容に触れつつ、ザンビアのトイレ、住宅密集地	授業プリント【まとめ】
		域で撮影した水道の写真を見せる。 ・プリント【まとめ】に感想を記入させる。	

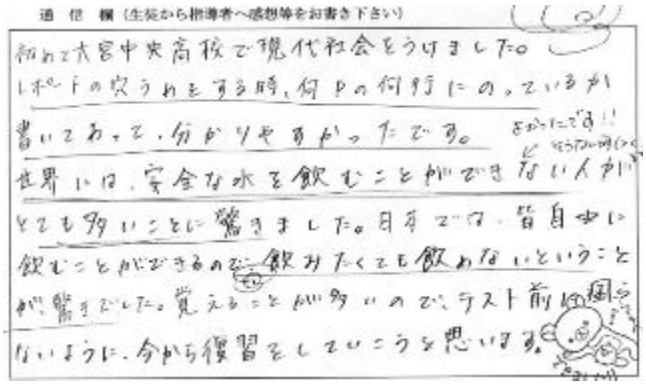
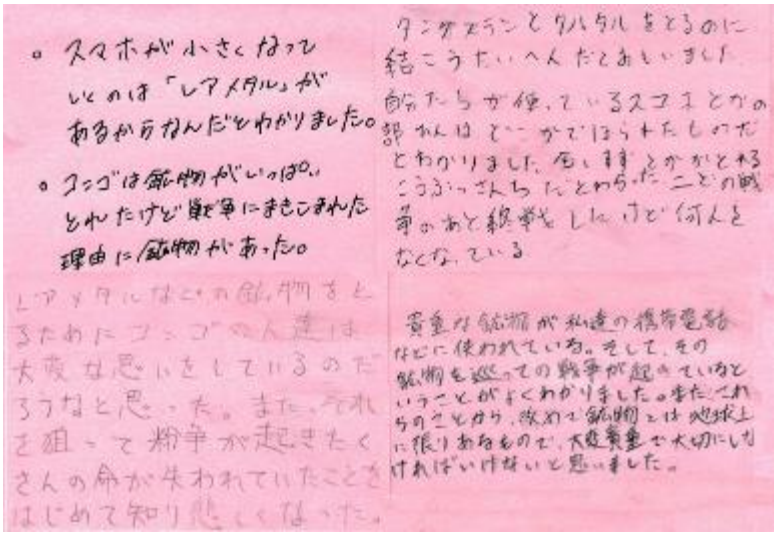
8. 評価規準に基づく本時の評価方法：ワークシート等の提出物とそこに書かれた論述から評価する。
・授業プリントを回収し、取組の様子を確認する。
・通信制高校で課されるレポートの提出状況・取組の様子から評価する。
・ペーパーテスト（二回の定期考査）の点数及びその取組から判断する。

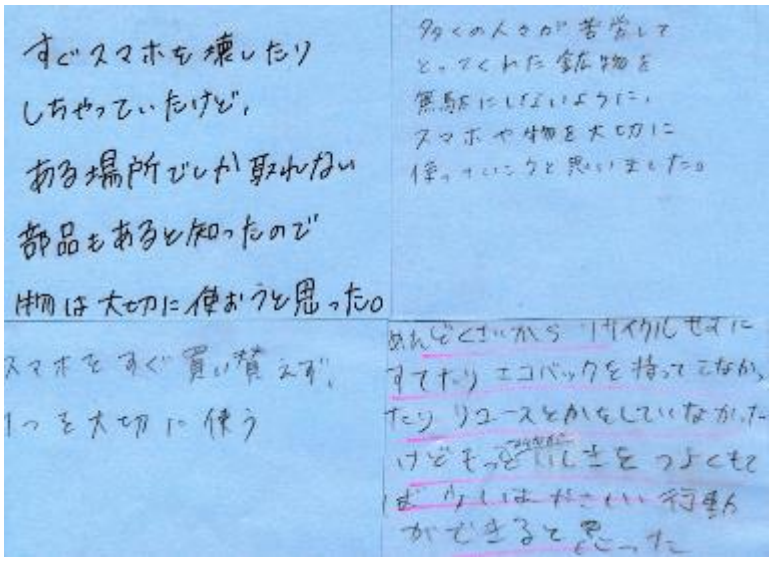
9. 学習方法及び外部との連携：外部機関との連携はできなかったが、地理A「世界の食料・人口問題」の単元でもアフリカに関わるスクーリングで現地での写真や実物教材を活用した。

10. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組
令和元年度 埼玉県高等学校定時制通信制教育研究協議会において、「ＳＤＧｓを活かした通信制高校における授業づくり―ＪＩＣＡ教師海外研修を通じて―」という題目で発表し、本校でのこれまでの取組を紹介した。

【自己評価】

11. 苦労した点	本校は通信制高校なので、授業ではなくスクーリングであり、１回で教科書数十ページ進めなければならないため、授業内容の精選が非常に難しく感じました。したがって今回は、テーマを「地球環境問題」「資源・エネルギー問題」に絞り、生徒に身近な「スマートフォン」を切り口に授業設計をしました。指導案を考える際には、生徒に興味を持ってもらえるような実物教材や視聴覚教材に触れる時間ができる限り長くなるよう、１分１秒切り詰めることを心掛けました。 また、時間の制約だけでなく教授方法にも配慮が必要でした。本校には、いじめや不登校の経験から対人関係に強い苦手意識を持つ生徒が多くいます。そのため、「他者と関わる活動」を取り入れることが難しい状況にありました。通信制では、授業当日にならないと何人出席するか事前にわからず、出席する顔ぶれも毎回異なります。生徒は週１回しか登校しないため、講座内の人間関係が形成されていないこともあり、グループワーク等を取り入れることが困難でした。しかし、今回は出来る限り生徒が自ら考え、それを発信する時間を設けたいと考え、付箋に意見を書いてもらい、それを授業者が紹介する形で生徒間の意見交換ができるようにしました。 また、限られた授業時間でも、「SDGs」「持続可能性」といった生徒にとって聞きなれない言葉を身近に感じてもらい、より当事者意識を持って地球環境問題や資源・エネルギー問題について考えてもらえるか何度も考えました。こうした通信制

	高校ならではの課題を１つ１つ解決しながら授業づくりをしていくことは、予想以上に難しかったです。
12. 改善点	今回は通信制高校での実践だったので、対人関係に強い不安や苦手意識を持つ生徒が多いため、グループワークなど他者と関わる主体的な活動を取り入れることができませんでした。今回は付箋に意見を書かせ、それを授業者が紹介する形で生徒同士の意見交換をしましたが、できれば生徒同士直接やり取りができるような活動を取り入れてみたかったです。全日制高校でやっているジグソー法等のように、生徒間で直接やりとりが生まれれば、もう少し学びが深まったように感じます。しかし、通信制に通う生徒の実態を鑑みれば、この指導案でやむをえなかったようにも思いました。全日制高校でやるなら、グループワークやペアワークを取り入れてアレンジしてもいいかもしれません。今回感じた反省は、今後の授業づくりに活かしていきたいと思います。
13. 成果が出た点	本校は通信制高校なので、授業（スクーリング）を受けるだけでなくレポートを提出しなければ単位認定とはなりません。今回の実践は現代社会の初回であったため、新入生にとっては入学後初めての授業でした。授業後は、昨年よりもレポートの提出状況が非常に良く、授業態度も良好でした。中には、レポートの通信欄に自主的に感想を書いて提出してくれる生徒もいました。  通信欄（生徒から指導者へ感想等をお書き下さい） 初めて大宮中央高校で現代社会をうけました。 レポートの穴うめをする時、何Pの何行にのっているか 書いてあって、分かりやすかったです。 世界には、安全な水を飲むことができない人が とても多いことに驚きました。日本では、自由に 飲むことができるので、飲みたくても飲めないということ が、驚きでした。覚えることが多いので、テスト前に困ら ないように、今から復習をしていこうと思います。
14. 学びの軌跡（児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど）	① 生徒が『DVD を視聴しての感想』を書いた１枚目の付箋 「資源をめぐって争いが起きていることを知った。」「日本でもレアメタルは使われているけど、コンゴ等遠い所で発掘されていた。」といった感想が多く、DVD を見て驚いた様子が見られる。  ・スマホが小さくなっていくのは「レアメタル」があるからなんだとわかりました。 ・コンゴは鉱物がいっぱい。とれたけど戦争にまきこまれた理由に鉱物があった。 レアメタルなどの鉱物をとるためにコンゴの人達は大変な思いをしているのだろうなと思った。また、それを巡って戦争が起きたくさんの命が失われていたことをはじめて知り悲しくなった。 タンゲステンとタンタルをとるのに結こうたいへんだとおもいました。 自分たちが使っているスマホとかの部品はどこかでほりたしたのだとわかりました。色々とかかとれるこうぶつさんだとわかった。二どの戦争のあと終戦をしたけど何人をなくなっている 貴重な鉱物が私達の携帯電話などに使われている。そして、その鉱物を巡っての戦争が起きているということがよくわかりました。また、これらのことから、改めて鉱物とは地球上に限りあるもので、大変貴重で大切にしなければいけないと思いました。 ① 生徒が『DVD を見て、これから私達は何をすべきか』を書いた２枚目の付箋 「資源を大切に使う。」といった意見が多く、エコバックを使うなど具体例も書かれていた。

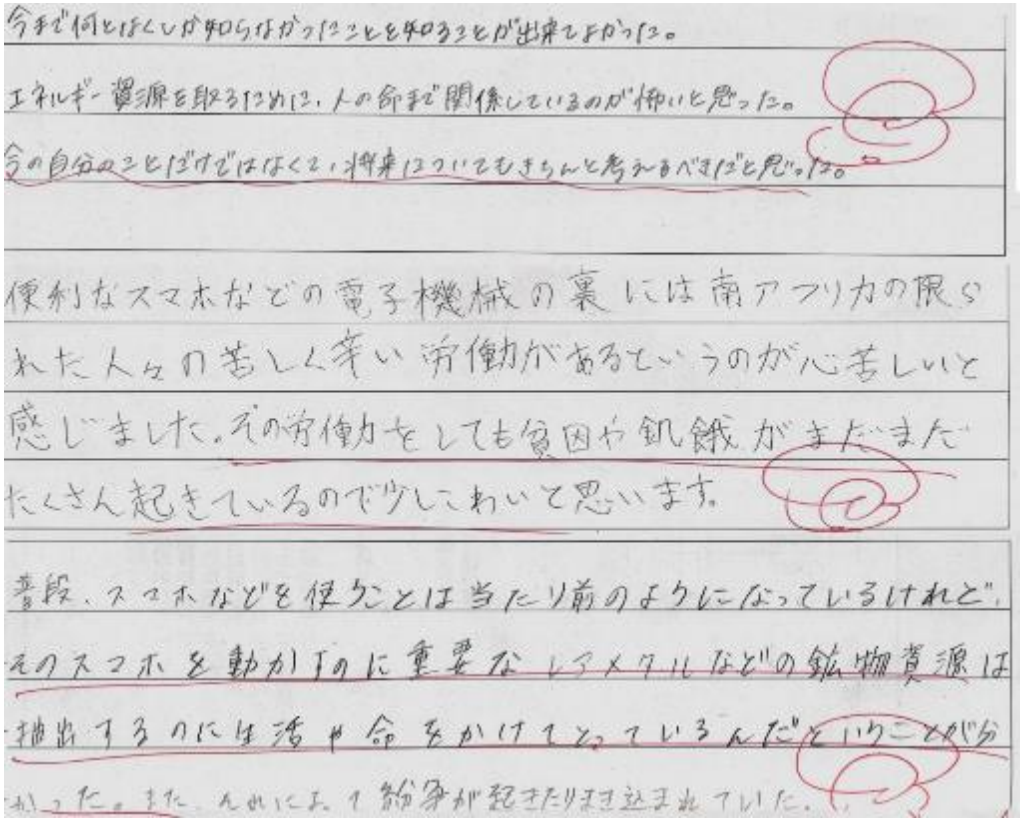

すぐスマホを壊したり
しちゃっていたけど、
ある場所でしか取れない
部品もあると知ったので
物は大切に使おうと思った。

多くの人々が苦労して
とってくれた鉱物を
無駄にしないように、
スマホや物を大切に
使っていこうと思いました。

スマホをすぐ買い替えず、
1つを大切に使う

めんどくさいからリサイクルせず
すてたりエコバックを持ってこなか
たりリユースとかをしていなかた
けどもっと[illegible]心を つよくもて
ば少しはかしこい行動
ができると思った

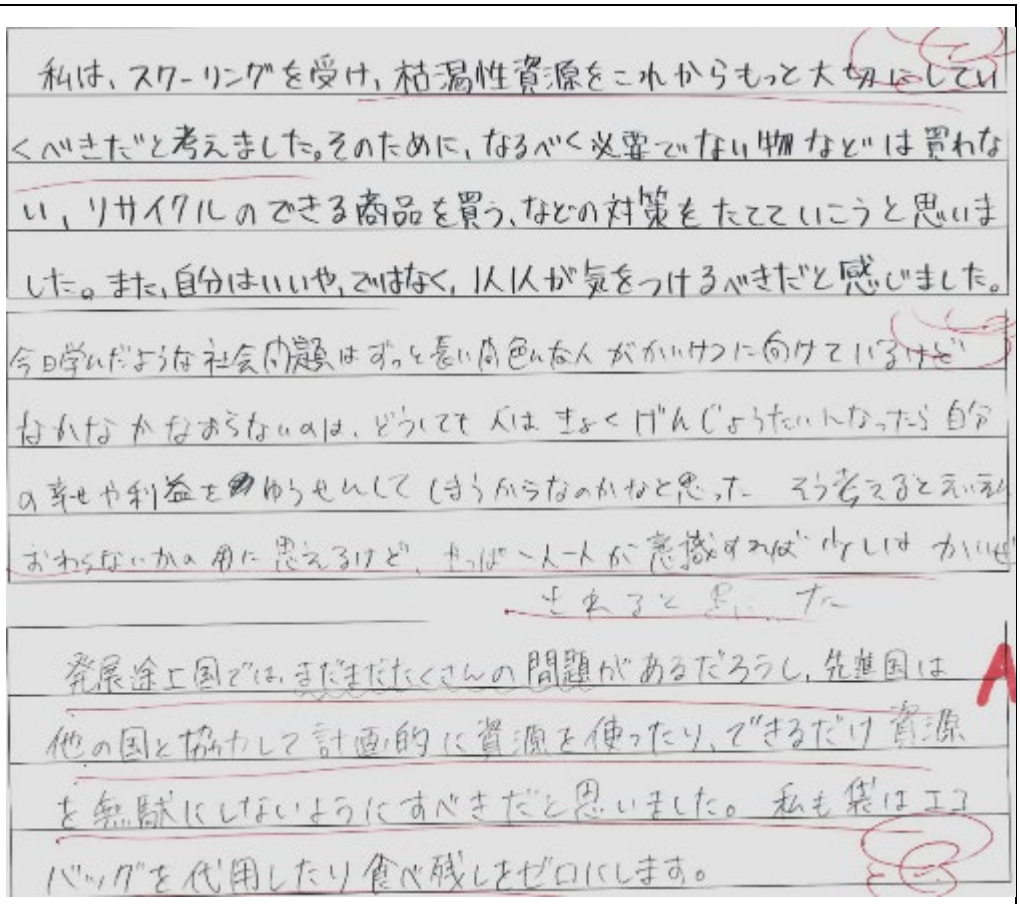
授業時に書いてもらった生徒の感想を見ると、将来について考えるべきだといった意見や、身近なスマートフォンがアフリカと関わりがあったことを知り、驚いている様子が見られました。

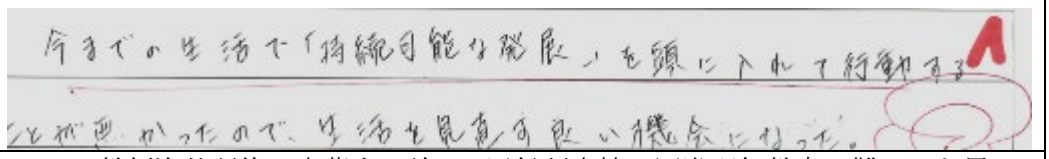

今まで何とはなしに知らなかったことを知ることが出来てよかった。
エネルギー資源を取るために、人の命まで関係しているのが怖いと思った。
今の自分のことだけではなくて、将来についてもきちんと考えるべきだと思った。

便利なスマホなどの電子機械の裏には南アフリカの限られた人々の苦しく辛い労働があるというのが心苦しいと感じました。その労働をしても貧困や飢餓がまだまだたくさん起きているので少しこわいと思います。

普段、スマホなどを使うことは当たり前のようになっているけれど、そのスマホを動かすのに重要なレアメタルなどの鉱物資源は抽出するのには沢山命をかけてとっているんだということが分かった。また、それによって紛争が起きたりまき込まれていた。

また、資源・エネルギー問題を学ぶことを通じて、自分のこれからの生活について言及している感想も多くありました。授業を通じて生徒の変容が見られる感想が多かったです。

<table>
<tr>
<td></td>
<td>

私は、スクーリングを受け、枯渇性資源をこれからもっと大切にしていくべきだと考えました。そのために、なるべく必要でない物などは買わない、リサイクルのできる商品を買う、などの対策をたてていこうと思いました。また、自分はいいや、ではなく、1人1人が気をつけるべきだと感じました。
今日学んだような社会問題はずっと長い間色んなんがかいけつに向けているけどなかなかなおらないのは、どうしても人は まっさきげんじょうたいになったら自分の幸せや利益をゆうせんしてしまうからなのかなと思った。そう考えると私おわらないかも用に思えるけど、もっと一人一人が意識すれば少しはかいけつすると思った
発展途上国ではまだまだたくさんの問題があるだろうし、先進国は他の国と協力して計画的に資源を使ったり、できるだけ資源を無駄にしないようにすべきだと思いました。私も袋はエコバッグを代用したり食べ残しをゼロにします。
A

今回のスクーリングが、自分自身の生活を見直す機会になったと書く生徒もいました。今回はじめて「SDGs」や「持続可能な発展」について知った生徒も多かったようです。

今までの生活で「持続可能な発展」を頭に入れて行動することが無かったので、生活を見直す良い機会になった。
A
</td>
</tr>
<tr>
<td>15. 授業者による自由記述（教師海外研修に参加した本学習指導案作成者として、他の教員へのメッセージなど）</td>
<td>
JICA 教師海外研修に応募する前は、通信制高校で国際理解教育は難しいと思い、ずっと申込みをためらっていました。本課程は、他の高校を転学・退学した生徒のみを受け入れているので、様々な事情を抱えた生徒が通っており、彼らはそれぞれ高校卒業という目標のために必死の思いで学校に来ています。そうした子達に途上国の現状を伝えたり、世界の貧困や飢餓などの経済・社会問題を伝えることにためらいがありました。私自身、開発途上国に行った経験が少なかったこともあり、自信を持って伝えることができていなかったからだと思います。
しかし、実際に現地に足を運び、そこで学び得たものを授業で伝えると、予想よりもはるかに生徒達は興味を持ってくれました。授業後の感想には、「今までの生活で『持続可能な発展』を頭に入れて行動することが無かったので、生活を見直す良い機会になった。」「今の自分のことだけではなくて、将来についてもきちんと考えるべきだと思った。」といったものがあり、生徒が少なからず関心を示し、自身のこれからの行動についても言及していることにも驚きました。
私の好きな言葉に、マザー=テレサの「愛の関心は無関心」というものがあります。すぐに他者に手を差し伸べることができなくとも、まずは関心を持って接するということが大事なのだと思います。我々が教員として、授業で途上国の現状を伝えることはその一歩だと考えています。そして私達通信制の教員は、社会と生徒を繋ぐ存在であり、他者と関わることに不安を感じている通信制の生徒だからこそ、社会のありのままの姿を伝えていく必要があるのだと感じました。
通信制に通う生徒の実態にあわせながらも、これからも可能な限り世界の現状や諸課題を伝えていきたいと思います。そして関心を持ってくれた生徒達が、いつの
</td>
</tr>
</table>

	日かアフリカの地に足を運び、現地の方々と交流してくれることを心から願います。 　これを読んでくださっている方で、もしまだ教海研に参加することを悩んでらっしゃいましたら、参加することを強くお勧めします。私自身、教海研に行く前と後では、考え方も大きく変わりましたし、世界の諸課題について自分なりに考え、自信を持って発信できるようになったように思います。私の実践は、通信制のスクーリングで実施したため様々な制約があり、他の参加者のものには到底及びませんが、少しでも参考になりましたら幸いです。同行した他校の先生方、現地で出会った協力隊の皆様をはじめ、教海研での貴重な出会いに感謝しながら、これからも精進していきたいと思います。そして、微力ながら今後も国際理解教育に携わっていきたいです。

参考資料：開発教育協会（2016）DVD「スマホの真実―鉱物資源と環境破壊とのつながり」、開発教育協会（2018）「スマホから考える世界・わたし・SDGs」、細井 義孝（2014）「成長する資源大陸アフリカを堀り起こせ-鉱業関係者が説く資源開発のポテンシャルとビジネスチャンス」(B&T ブックス)、日刊工業新聞社